学生支援の現場から

◆松本大学
地域がキャンパス
～地域の未来を育む大学教育

白戸　洋
（総合経営学部
観光ホスピタリティ学科教授）

地域に貢献することを基本理念に掲げた松本大学・松本大学松商短大部では、地域全体をキャンパスと捉え、講義内容を活かしつつ、日常的に地域でのフィールドワークを行う「アウトキャンパス・スタディ」を教育の特徴としています。将来、地域を担う若者を育てるためには、地域へ飛び出し、そこに生きる人々と出会い、地域の日々の営みを、五感を使って学び、実践を通じて共感することが欠かせないという問題意識から、この教育システムに取り組んでいます。若者は多くの人と出会うほど、人生が豊かになり、時には人生を変える機会を掴むことができます。地域や人との出会いの中で、本学の学生は、コミュニケーション力などの社会で生きる能力を身につけ、社会や他者に興味を持ち、自らの役割を地域の中に見出していきます。平成一五年には松商短期大学部の取組「多チャンネルを通して培う地域社会との連携～地域社会で存在感のある大学をめざして」が、「特色ある大学教育プログラム」に採択され、全学的に取り組むきっかけとなりました。

同時に、「アウトキャンパス・スタディ」は、理論学習を主として、その補助にとどまっていた体験や実践を、体験を通じて興味を持ち、学習意欲を高める学びのきっかけとして、また学びの成果を活かす機会として、大学教育の中核に位置付けられています。「何を学ぶか」を事前の学習で明確にし、キャンパスに戻ってからは、地域での学びを理論によって深く理解するという学習サイクルによって、「アウトキャンパス・スタディ」は進められています。講義科目ではそれぞれの専門に関わる分野で「アウトキャンパス・スタディ」に取り組む一方で、少人数のゼミナールでは、継続的に地域での学びに取り組み、地域

学生と農家が連携して、松本地方に伝わる伝統野菜「松本一本ねぎ」を地域ブランドとして確立した。

づくりの実践活動や商品開発などの具体的な成果をあげ、地域からも高く評価されています。

また、地域での学びによって育った学生の学習意欲を、さらに地域での実践活動に高めるために、地域と大学を結ぶ「地域づくり考房・ゆめ」を開設しています。「地域づくり考房・ゆめ」には専任の教員がコーディネーターとして配置され、学生が主体となって、地域の人々とともに地域づくりに関わる活動を展開しています。平成二〇年には、「若者の地元定着につなげる地域活動の支援～地域まるごとキャンパス『地域づくり考房『ゆめ』～」が、「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に採択され、松本の市街地に新たに「ワークステーション」として拠点を開設し、より地域に密着した実践活動を進めています。

「まちをつくるって、人の心を変えることなんだね」松本の街づくりに取り組んできた学生の言葉です。信州松本の地では、大学と地域がともに、若者を「よってたかって育てる」ことで、地域の未来を育んでいます。

第一弾が2008年1月に発売された「cupDON」は、ゼミナールの学生と大手コンビニエンスストアーが共同開発する地産地消のお弁当で、2009年7月には子育て中の母親と共同で、第三弾を発売した。

アルプスの景観の保全や地域の拠点のコミュニティ蕎麦店の開店など、学生が住民とともにJR松本駅西口のまちづくりに関わった。